

令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

学校法人 上野学園

令和4年度 事業報告書

I 法人の概要

設置する学校・学部・学科等

上野学園大学

音楽学部 音楽学科 器楽コース
 声楽コース
 グローバル教養コース
 演奏家コース
 音楽専攻科 音楽学専攻
 器楽専攻
 声楽専攻

上野学園大学短期大学部

音楽科
 専攻科 音楽専攻

上野学園高等学校

全日制 普通科 特別進学コース
 総合進学コース
 全日制 音楽科 演奏家コース
 器楽・声楽コース

上野学園中学校

アドヴァンスト・コース
 プロGRESS・コース

学校・学部・学科等の学生・生徒数（令和4年5月1日現在）

学校	学部・学科等	入学定員	収容定員	入学 者数	在籍 者数
上野学園大学	音楽学部音楽学科	0	210	0	50
上野学園大学短期大学部	音楽科	50	100	36	73
上野学園高等学校	普通科	160	480	178	475
	音楽科			4	17
上野学園中学校		80	240	49	148
合 計		290	1030	267	763

役員等の概要（令和4年6月22日現在）

理事 6名 石橋香苗（理事長）、石橋慶晴、ジャン＝フランソワ・ミニエ、江幡亜木、
 松平恒和、土屋正孝
 監事 2名 鈴木達也、高木充利
 評議員 15名

教職員構成、人員数（令和4年5月1日現在）

教員／事務職員	専任	非常勤	合計
上野学園大学	16	51	67
上野学園大学短期大学部	8	52	60
上野学園高等学校	51	55	106
上野学園中学校			
事務職員	32	17	49
合計	107	175	282

※学校基本調査に記載している人数に基づく。

上野学園の沿革

- 1904年11月 建学の精神を「自覚」として、石橋藏五郎が私立上野女学校を創立
(下谷区上野桜木町2番地)
- 1910年9月 財団法人私立上野高等女学校認可
- 1912年10月 浅草区神吉町46番地(現台東区東上野4丁目)に移転
- 1913年4月 私立上野実習女学校を設置
- 1914年11月 私立上野実習女学校を、私立上野家政女学校に改称(1945年廃止)
- 1946年4月 上野女子高等学院(文化科・家政科)を設置
上野高等女学校専攻科(英語科・被服科)を設置
財団法人上野学園に改称
上野高等女学校が東京都の音楽研究指定校となる
- 1947年4月 上野学園中学校を設置(学校教育法実施により上野高等女学校および同専攻科は上野学園中学校・上野学園高等学校に改組。高等学校は翌年に設置される)
- 1949年4月 上野学園高等学校に全国初の音楽科を設置
上野学園高等学校別科を設置
- 1951年3月 学校法人上野学園に変更
- 1952年4月 石橋益恵、学長に就任
上野女子高等学院を廃止
- 1956年4月 短期大学家政科を設置(2006年廃止)
- 1958年4月 上野学園大学開学、音楽学部器楽学科・声楽学科・音楽教育学科を設置
石橋益恵、学長に就任
- 1959年3月 短期大学音楽科を発展的に解消
- 1961年3月 上野学園家政高等学院が上野学園草加高等学校に改組
- 1963年4月 大学音楽学部器楽学科に日本初のチェンバロ専門、音楽教育学科に音楽学専門を開設
- 1963年10月 大学音楽学部、日本音楽史料の組織的収集に着手
- 1964年4月 石橋藏五郎逝去
- 1964年6月 石橋益恵、理事長に就任
- 1966年4月 大学音楽専攻科(音楽教育専攻・器楽専攻・声楽専攻)を設置
短期大学音楽科を再設置(埼玉県草加市)

1968年 4月	短期大学専攻科（音楽専攻）を設置
1969年 4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のリュート、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リコーダーの各専門を開設
1970年 4月	大学音楽専攻科の音楽教育専攻を音楽学専攻に改称
1971年 4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のギター専門を開設
1973年 4月	研究施設、上野学園日本音楽資料室を創設
1974年 11月	創立 70 周年記念講堂（石橋メモリアルホール）竣工
1981年 4月	石橋益恵、学園長に就任 石橋裕、上野学園大学および上野学園短期大学長に就任
1985年 4月	短期大学家政科を草加キャンパスに移転、短期大学を集約し、名称を上野学園大学短期大学部に改称 短期大学部人文学科（英語専攻・文化専攻）を設置
1992年 2月	石橋益恵逝去
1992年 3月	石橋裕、理事長に就任
1992年 4月	上野学園大学短期大学部専攻科国際文化専攻設置
1995年 4月	短期大学部人文学科を大学国際文化学部へ改組転換、英語と英国・アイルランド文化コース、スペイン語とイベリア、ラテン・アメリカ文化コース設置
1996年 3月	国際文化学部への改組転換により、短大部人文学科廃止
2000年 4月	短期大学部音楽科に音楽療法士養成教育課程を開講
2004年 4月	上野学園大学音楽・文化学部を設置（音楽学部と国際文化学部を統合） 音楽・文化学部音楽学科に演奏家課程を設置
2004年 11月	創立 100 周年記念式典挙行
2005年 4月	大学演奏家課程を演奏家コースに改称 高等学校音楽科に演奏家コースと器楽・声楽コースを設置 大学音楽・文化学部国際文化学科、短期大学部音楽科、家政科、上野キャンパスへ移転
2006年 10月	日本音楽資料室を上野学園大学日本音楽史研究所に改称
2007年 4月	石橋裕、学園長に就任 石橋慶晴、理事長に就任 上野学園大学・同短期大学部、上野学園中学校・高等学校を男女共学化 高等学校普通科に特別進学コースと総合進学コースを設置 創立 100 周年記念事業として新校舎竣工
2007年 9月	上野学園楽器展示室を開室し、上野学園所蔵の古楽器を公開
2007年 10月	上野学園大学日本音楽史研究所を草加キャンパスに移転
2009年 4月	原田禎夫、上野学園大学・同短期大学部学長代行に就任
2010年 2月	新講堂（上野学園 石橋メモリアルホール）竣工
2010年 3月	大学音楽・文化学部国際文化学科廃止
2010年 4月	大学音楽・文化学部を音楽学部へ改称 上野学園大学日本音楽史研究所が大学附置研究所となる 高等学校普通科に特別進学コース α ・ β を設置
2010年 5月	音楽文化研究センターを大学音楽学部の附属機関として設置

2011年4月	石橋裕、上野学園大学名誉学長の称号を授与される 前田昭雄、上野学園大学学長に就任
2014年9月	石橋慶晴、上野学園大学短期大学部学長に就任
2014年11月	創立110周年記念式典挙行
2015年4月	ミュージック・リサーチ・コースをグローバル教養コースに改称 グローバル教養コースに文化創造マネジメント専門を開設 船山信子、上野学園大学学長に就任 中学校音楽コース、普通コースをアドヴァンスト・コースとプログレス・コースに改編 高橋公三子、上野学園中学校・高等学校校長に就任
2015年12月	上野学園大学日本音楽史研究所を上野キャンパスに移転
2016年4月	上野学園高等学校との連携プログラムを施行
2016年6月	石橋香苗、学校法人上野学園理事長に就任
2017年1月	石橋裕学園長逝去
2017年4月	皆川弘至、上野学園大学学長に就任 石橋香苗、上野学園大学短期大学部学長に就任
2019年4月	前田昭雄、上野学園大学学長に就任
2020年4月	吉田亘、上野学園中学校・高等学校校長に就任
2022年4月	上野学園大学短期大学部専攻科が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の認定を受ける

II 事業の概要

<法人の事業>

1) 学園全体に係わる主な事業の概要

学園創立118周年にあたる令和4年度も令和3年度に引き続き、「Revalue 再び価値を見直す」 「Cross-sectional 横断的な豊かな学び・研究」の視点から、教学、法人面における精査、改善を実施した。

まず「Revalue」においては、1) 伝統校として培った教育のノウハウ、知的財産を活かした特色のある学びを新たに打ち出していくこと、2) 特色ある学びに基づく一貫教育の充実に向けて環境を整備すること、3) 法人においては、平成30年度より引き続き業務改善に取り組むことに加えて、業務の効率化に向けて抜本的な見直しを行うことに取り組んだ。

次に「Cross-sectional」においては、1) コースに限ることのない、横断的かつ多角的な学びの実現のための教養科目と選択科目を充実させること、2) 実技面における多角的な学びを充実させること、3) 日本と海外との交流、海外留学・研修制度を充実させるための計画、4) 地域連携の促進を実施していくことに取り組んだ。

財務基盤については、昨年度のホールの資産売却により、収支赤字の削減と運用資産余裕比率が改善している。

令和6年度に創立120年を迎える上野学園が、永きにわたり培ってきた音楽教育を特徴として、自ら考える力、真の教養と長けた創造力、国際的な視野を持ち合わせたリーダーを育てていくこと、生徒学生が自立して社会で活躍できる人材となることを学園のミッションとする。

創立120周年に向けては「UG120プロジェクト」の検討がはじまった。

2) 国際コース準備室の立ち上げ

「UG120 プロジェクト」のひとつとして、中学校から6年間の国際コースを2024年に開設するため、準備室を立ち上げ、定期的な会議を実施した。

3) 光熱費の削減の取り組み

光熱費の削減のため、下記の取り組みをした。

- ①月ごとの光熱費の推移を確認しながら光熱費の削減に努めた。
- ②全館20時退館の奨励を行った。
- ③引き続きの夏期及び冬期一斉休館期間を設けた。

4) SD活動

令和4年度は、次の研修会を実施した。

2022年度 第1回 FD・SD研修会

日時 令和5年3月30日(木) 13:00-14:00

場所 YouTube 動画閲覧(第1リハーサル室での対面視聴参加も可)

テーマ ICT 研修会-情報セキュリティとオンラインミーティングツールの利用について-

対象 大学・短期大学部の全教員及び職員

講師 小野田 翔氏《株式会社アバンテ》

5) 情報発信力の強化

① 広報ツールの整備

広報媒体は2021年度に引き続き変更なく契約を継続したが、短大進学の特典をまとめたチラシの制作、次年度の学校案内の制作、入試ガイドの制作(2021年度にはなかったもの)等を2022年度中にほぼ完了し2023年度に備えた。コストダウンのための制作物の印刷業者変更や講習会のパンフレット配布からチラシ配布への変更等経費の削減にも努めた。

<表1: 2022年度資料請求者数>

2022年度月別資料請求者数 (下段は前年)

	2022年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年	2月	3月	総計	前年比
	4月								1月					
総反応数	60	66	89	75	84	52	51	64	48	40	103	60	792	138%
	49	41	46	53	50	56	72	41	28	35	39	65	575	
2023 卒生 既卒	40	50	60	41	55	35	33	44	28	21	49	10	466	150%
	33	33	31	30	29	39	32	16	7	13	23	25	311	
2024 卒生	10	4	16	12	14	8	7	8	12	9	44	20	164	109%
	13	5	6	15	16	9	11	11	14	13	12	25	150	
2025 卒生	10	5	13	14	14	4	6	5	7	8	14	25	125	187%
	2	2	6	7	5	8	7	3	1	9	3	14	67	

<表 2 : 2020 年度～2023 年度入試受験者数の推移>

音楽科 受験者数から入学者数の推移				
	志願者	受験者	合格者	入学者
2020 年度	49	46	43	40
2021 年度	45	43	42	37
2022 年度	35	35	35	35
2023 年度	31	30	29	28
専攻科 受験者数から入学者数の推移				
	志願者	受験者	合格者	入学者
2022年度	2	2	2	2
2023年度	3	3	3	3

② オンラインツールの整備

ツイッター、LINE の運用復活、インスタグラムの運用開始を行い、体験レッスン、個別相談の ZOOM 対応も継続して行った。

③ 高校訪問の強化

高等学校への訪問を強化し 2022 年 3 月 23 日から 2023 年 2 月 28 日までに延べ 1186 校の高等学校を訪問した。訪問地区は、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県。そのうちの約 100 校が毎年ではなくとも本学への進学を具体的に検討する生徒を想定できると考えられる。高校訪問により指定校も追加を行い、受験生を新規に掘り起こせた高等学校もあり、継続して訪問を続けている。

④ オープンキャンパス

2022 年度のオープンキャンパスの来場者数について、高 3、既卒者の来場と体験レッスン受講数は前年を上回る結果となった。参加者アンケートも WEB に切り替え、集計を迅速に行うようにし、内容をひとつひとつ改善した。参加者アンケートの満足度は 100% 近くにまでになった。また、今年度はオープンキャンパスとは別にイベントや体験レッスン等、来校した新規者数の把握を行った。

<表 3 : 2022 年度実施オープンキャンパス参加者数の前年度との比較>

2022年度オープンキャンパス参加者数													新規者: 来校が全く初めて				
No.	開催日	全体 (家族保護者含まず)			2023卒 既卒			2024卒			2025卒			体験レッスン 短大			
		合計	内新規者	前年	合計	内新規者	前年	合計	内新規者	前年	合計	内新規者	前年	合計	内新規者	前年	
1	3月27日(日)	8	6	(13)	8	6	(3)	0	0	(10)	0	0	0	6	6	(11)	
2	4月17日(日)	8	8	(15)	7	7	(13)	1	1	(2)	0	0	0	8	8	(10)	
3	5月1日(日)	12	10	0	9	7	0	3	3	0	0	0	9	8	0		
4	6月19日(日)	27	13	(15)	25	11	(12)	2	2	(3)	0	0	0	13	8	(9)	
5	7月17日(日)	11	10	(23)	2	2	(20)	7	6	(1)	2	2	(2)	8	7	(15)	
6	8月21日(日)	25	21	(40)	9	5	(25)	4	4	(13)	7	7	(2)	7	4	(12)	
7	10月2日(日)	25	17	(17)	21	13	(14)	4	2	(2)	0	0	(1)	14	9	(7)	
合計		116	85	(123)	81	51	(73)	21	18	(31)	9	9	(5)	65	50	(64)	

来校者確保のための対応

資料請求者から来校者を確保するためにメールでの案内に加えて、電話での案内を実施した。対象者は資料請求者すべてとした。

<表 4 : 2022 年度イベント新規参加者数>

2022年度月別新規来校者数(OC、体験レッスン者、見学個別相談)													
新規来校	2022年 4月※	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	総計
高1	0	0	0	3	12	0	1	0	0	0	9	2	27
高2	1	3	2	7	4	1	2	1	1	0	6	5	33
高3	9	3	11	6	3	1	3	12	0	0	1	0	49
既卒	6	7	9	0	3	1	14	7	4	1	14	3	69
合計	16	13	22	16	22	3	20	20	5	1	30	10	178
既卒高3合計	15	10	20	6	6	2	17	19	4	1	15	3	118

2023 年度入試の募集状況について改善した点が多かったにも関わらず出願数が十分に伸びなかった。

資料請求数増加、イベント来校者数は昨年とほぼ変わらず、高校訪問数は 1,000 校以上、オープンキャンパス満足度ほぼ 100%にも関わらず、出願者数が昨年を下回った原因として考えられるのは、短期大学としての魅力の打ち出しが充分ではなかったことなので、2022 年度中に、魅力打ち出しのための学校案内の早期制作、入試ガイド制作、メリットに関するチラシ制作を行った。

<大学・短期大学の事業>

1) 教員の適正な配置による教育の質保証(大学・短期大学部)

大学は、学生募集停止により開講科目が徐々に縮小されているが、学生の履修計画に沿った科目開講を最優先にした上で、担当教員の配置を見直している。

短期大学部においても、授業科目数と学生数・教員数のバランスを見ながら、規模に見合った

授業科目を開講している。

2) 対面授業・レッスンの実施 (大学・短期大学部)

コロナ禍で取り入れた遠隔手段 (全教員・学生へのメールアドレス付与、Teams の導入、等) を活かしつつ、直接対面による学修の充実を図るため、原則対面での授業・レッスンを再開した。

3) 認定専攻科の開始 (短期大学部)

2年間の学修を通してより学びを深めたい意志をもつ学生が学修を継続できる環境を構築し、音楽における総合的な実践的能力を身に付け、学士の学位を取得し、キャリアの可能性を拓くため、学位授与機構の認定を受けた専攻科を開講し、令和4年度には2名の入学があった。

4) 社会人学生 (短期大学部)

社会人の学びへの意欲は年々高まり、総合型選抜入試 (社会人) により一定数の社会人学生が入学している。学び直しやキャリアアップのための資格取得、定年退職後の新たな学びなど、目的、バックグラウンドは様々であるが、自身の生活に沿った学びの形の実現のため履修上の助言を行い、リカレント教育を推進している。

5) 長期履修学生制度 (短期大学部)

平成27年度に開設した「長期履修学生制度」は、運用開始から順調に一定数の入学生を得ている。

年度	令和2年度	令和2年度	令和3年度
長期履修学生 (人)	3	5	6
入学者数における割合 (%)	7.5	13.5	17.1

6) ボランティア活動 (大学・短期大学部)

コロナ禍により中止となっていたボランティア活動を少しずつ再開している。オンラインでのボランティア演奏では、コロナ禍で施設への入構が制限されている中で、生の演奏に触れる機会の少ない方々にクラシック演奏を鑑賞していただく機会を実現できたとして好評を得た。また、地域の福祉活動の場でのチャリティー演奏等によって社会貢献・地域連携活動にも繋がった。

日付	内容	会場
8月31日 (水)	オンラインで音楽会	台東区内の福祉施設とオンライン
10月16日 (日)	ふくしつながりフェスタ (オープニング演奏)	御徒町南口駅前広場 (台東区)
12月1日 (木)	歳末たすけあい地域福祉活動募金活動におけるチャリティー演奏	御徒町南口駅前広場 (台東区)

7) 演奏活動（大学・短期大学部）

令和4年度に実施した大学および短期大学部主催・参加の演奏会は下記の通りである。

〔令和4年度上野学園大学・同短期大学部主催・参加演奏会〕

日付	演奏会	会場
5月13日（金）	春の演奏会	飛行船シアター
10月6日（木）	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ 31～日本の調べによる郷愁	台東区立旧東京音楽学校 奏楽堂
10月28日（金）	第35回 短期大学部定期演奏会	飛行船シアター
11月10日（木）	上野の山文化ゾーンフェスティバル 30周年 記念講演会シリーズ No.7「古楽器との対話」	上野学園 楽器展示室
11月18日（金）	第71回 オーケストラ定期演奏会	飛行船シアター
12月10日（土）	第13回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル 2022	東京芸術劇場
2月17日（金）	第10回 ウィンド・アンサンブル定期演奏会	飛行船シアター
2月24日（金）	短期大学部音楽科卒業演奏会	飛行船シアター
3月1日（水）	上野学園ミュージアム・コンサート「中世からバロックハープに至る調べの変遷」	上野学園 1507室
3月3日（金）	大学音楽学部卒業演奏会	飛行船シアター
3月9日（木）	上野学園大学による午後のコンサート・シリーズ 32～弦・管合奏による春の響き	台東区立旧東京音楽学校 奏楽堂
3月18日（土）	古楽研究室演奏会「リコーダーによる 17、18世紀のイタリア音楽」	上野学園 1507室
3月25日（土）・26日（日）	第12回音楽大学フェスティバル・オーケストラ	東京芸術劇場、ミューザ 川崎シンフォニーホール

「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」への参加は恒例となっている。他音楽大学との交流を図り、上野学園大学管弦楽団の音楽的・技術的質の向上を推進した。

また、ウィンド・アンサンブル定期演奏会は学生募集の一翼を担う演奏会でもあり、学園祭で開催したウィンド・アンサンブル発表会とも連動している。

8) 特別公開講座の実施（大学）

令和4年度に実施した特別公開講座は下記の通りである。

日付	内容	講師／演奏者
5月15日（金）	春の演奏会	学生によるアンサンブル等
10月5日（水）	オリヴィエ・メシアン（1908～1992）の20世紀フランス音楽	安田正昭准教授
11月18日（金）	第71回オーケストラ定期演奏会	福島康晴非常勤講師指揮 上野学園大学管弦楽団
11月30日（水）	「ベートーヴェンのピアノソナタ」～楽章構成の変遷～	植田克己特任教授

9) FD 活動 (大学・短期大学部)

令和4年度は、次の研究会を実施した。

形態 動画配信形式

テーマ ICT研修会—情報セキュリティとオンラインミーティングツールの利用について

対象 大学・短期大学部の全教員及び職員

講師 小野田 翔 氏《株式会社アバンテ》

情報漏洩防止のためのセキュリティ対策や昨年末に導入した Office365「Teams」の使い方などを中心に、オンラインツールをより安全に、自由に使いこなすことを目的とする。

10) IR 活動 (大学・短期大学部)

IR委員会により、定期的なアンケート実施が確立されている。入学時の期待感と卒業時の達成度、在学中の学修時間を継続的に測ることを目的とする。

11) 日本音楽史研究所の事業 (大学)

○国文学研究資料館への寄託事業 (平成30～令和3年度)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は寄託を延期し、令和3年度に能楽部門、仏教音楽部門(声明史料一部)、漢籍、岸辺成雄旧蔵史料などを3月25、26日に寄託した。令和3年度にて3年度分の移送は完了したが、移送した史料とリストの照合、本学法人と国文学研究資料館との完了確認及び覚書は取り交わされていない。これらについては令和5年度中に完了予定。すでに寄託された史料については、国文学研究資料館が史料のデジタル化を行い、国文学研究資料館から学術情報を発信する予定である。

○一般業務

史料の収集・維持(保存・修繕・調整)／史料調査・研究／史料閲覧(寄託作業のため、限定的に閲覧受付)／運営委員会(毎月開催)／研究年報『日本音楽史研究』編集・執筆／架蔵資料等目録の編纂とそのデータベース化準備等

○調査研究

- ・論文集『歴史学としての日本音楽史研究』を和泉書院より令和4年7月刊行。
- ・『日本音楽史料叢刊3 楽人補任総覧』の原稿執筆がほぼ完了したため、令和5年度中に和泉書院より刊行予定。
- ・研究年報『日本音楽史研究』第9号を令和5年度中に刊行すべく、編集執筆作業。

○研究者受入・科研費関係

- ・令和元年度より日本学術振興会特別研究員 PD として当研究所にて受け入れた早川太基氏(北京大学文学博士)の特別研究員奨励費(科研費)報告書を5月に日本学術振興会へ提出。

12) 就職支援：キャリア支援センター (大学・短期大学部)

① 就職支援の取り組み

一般企業への就職支援、音楽能力を活かした進路への支援等、学生の職業選択の幅を広げべく取り組んでいる。学生の卒業後の動向については、局面に応じて職員・教員間で情報共有し、進路不明者を減少させるべく充実施策の検討・実施を続けている。

② キャリアカウンセラーの配置と個別指導の徹底・強化の継続

キャリアコンサルタント有資格者による個別面談(予約優先制)の他、就職活動・進路決定

のうえで役立つ下記支援の実施を続けている。月～金・10：30～17：30の間はキャリアコンサルタント有資格者が在室し、相談がしやすい環境づくりに努めている。

支援内容としては、「自己分析」、「適職相談」、「履歴書の書き方」（自己PR・学生生活で力を注いだことなどの書き方）、「企業・業界研究」、「インターンシップへの参加」、「応募書類添削」、「ビジネスマナー」、「面接対策」、「筆記試験対策」「就職情報の提供」「進学・留学関連情報の提供」「内定後の相談」などである。

③ 早期の学生対応

早期キャリア教育の重要性を鑑み、気軽にキャリアカウンセリングを受けることを促すため、キャリア支援センターの活動に関する告知・掲示等を継続して行った。教員志望の学生には、希望進路に関連した学童保育指導員の短期アルバイトやボランティアを紹介し、教職担当教員とも情報の共有を行った。

④ 教員希望者支援

今年度は教職担当教員との連携をさらに深め、私学教員・臨時任用・非常勤講師などの求人情報を共有し、スピードをもって卒業生も含む人材の推薦なども行っていった。

また、現在は教職における採用面接でも、ストレス耐性や柔軟なコミュニケーション力などが年々重要視されてきているため、キャリア支援センターでの面接練習なども促進している。

⑤ インターンシップ提携企業との親交

以前から引き続き、音楽療法を積極的に取り入れているデイケア老人福祉施設・学童クラブ・児童館運営などの事業を行う企業2社と連携し、音楽療法および学習補助・介護補助を行うインターンシップの参加を呼び掛けている。

⑥ メールマガジンの配信・本学学生用WEB求人検索サイトなどの情報発信

本年度より卒業年次生と翌年卒業見込生に向けて、月に2～3回程度のメールマガジンの配信をはじめた。コロナ禍で対面式ガイダンスの実施が難しいなか、学生にメールで「就職活動や進路に向けて今何をすべきか」などの情報の発信を続けている。

また、本学学生専用の求人閲覧WEBサイト（キャリアタスUC）の求人も精査をし、学生へ求人を提示するなどもしつつ、サイトの利用を促した。外出ができない・企業説明会の参加などができない状況下が本年度も続いてきたため、安心してWEBを使用して求人を探すことができるよう環境を整えている。

<中学校・高校の事業>

1) 広報活動の強化

① 生徒募集活動の実施

前年度に引き続き広報校務会を積極的に開催、学校説明会や外部相談会開催前に実施内容の指示や確認を行った。学校説明会は、予約制であるものの全て実施することができ、昨年に加えて共働き世帯に対応できるよう「ナイト個別相談会」や埼玉県生の2学期の成績が出るのが遅いため、そのタイミングに合わせて個別相談会も実施した。昨年に比べると、学校説明会の参加者も増えた。外部進学相談会の数も、予約制であるもののコロナ禍以前にほぼ戻り、積極的に広報活動が行えた。

今年度は校長が入試検討委員会を発足し、上野学園の建学の精神を精査し、中学校の6年間の取り組みを進路・研究開発・教務・募集広報の視点でまとめあげた。いつまでも「少人数で面倒見がよい学校」では大手予備校に見向きはされず、この先中学募集が難しくなるため「自

分の可能性を見つけ、深められる」学校づくりをしていこうと決定した。教職員にもそのことは周知できたと考える。中学校では、放課後チャレンジや探究学習等中学で行っている様々な取り組みを動画や卒業生・在校生を通じて紹介を行った。特に極力毎回生徒の姿を見せるように工夫し、在校生・卒業生のありのままの姿をお見せした。決して学業だけではない、本校の豊かな人間性を育成する校風、チャレンジできる教育の取り組みに魅力を感じていただける方も多くいた。フィールドワークから探究学習につなげ、一人一人に合った進路をみつけるという本校の取り組みをアピールできたと考えている。また、中学入試は保護者がメインとなるため、第一志望に指名してくださった保護者には丁寧にイベント情報などを共有し、サポートに専念した。中学入試では、大手予備校に配慮し、2月1日午前中に4科を実施、公立中高一貫校受験生に配慮するため、適性検査型入試は「白鷗型」だけでなく、「両国型」も導入した。公立一貫校受験塾の最大手「ena」の第1地区、第5地区会議にも参加し、定期的な情報発信などを通して良いアピールができた。

結果は適性検査型入試の出願数は増え、受験生の学力レベルも向上した。が、芝国際をはじめ、国際ブームに圧され気味になり、学力層が上がるということは、他校も合格する受験者も増えるわけで第一志望の生徒が他校に合格してしまう事態も多数起こった。また、今まで受験してくれていた低学力のサポートが必要な受験生の志願者が激減したため、前年度減の人となってしまった。ただ、日能研やSAPIX等の大手予備校受験生が本校の後半戦に出願し、二次募集も出願者が大幅に増加したことを鑑みると今後の展望が開けてきたと考える。現在の大手予備校にさらにPRし、優秀な人材に受験してもらえるよう努力したい。

入学生は45名と昨年度より4名減少となったものの、卒業する世代41名より増員できたのはよかった。今年度も受験生が偏差値だけでなく、学校の雰囲気や取り組みをみて学校を選択する傾向がみられるようで、多くの学内説明会を通じて本校の生徒を主体とした学校づくりに興味をもって頂けたのだと考えている。塾訪問では、今年度重点に置いた流山おおたかの森をはじめとしたつくばエクスプレス沿線からも出願者がいた。

高校受験に関しては、国際ブームにやや圧されたまた内部進学者が9名減少し、普通科168名（昨年178名）と、その結果を反映する形となった。しかしその一方で普通科は併願受験生の歩留まりが約33%で推移し、優秀な生徒が入学してくれた。来年度以降も、都内の中3生の数は変わらず推移していき、また都立高校倍率は本校の併願先の学校は軒並み高倍率である可能性が高いため、歩留まりは良いと考える。単願受験者をしっかりと確保した上で、併願者は都立の比較的倍率のつく高校の併願校として認知してもらうことが必要である。（都立江北・足立・小岩等）より外部相談会や模試会場貸し出しを利用して、来校してもらう機会を増やす予定。

その他、例年通り中高生徒から有志を募り、「上野学園コンシェルジュ」を組織、学校説明会時の受付、施設案内、個別相談など生徒達が主体となって説明会の運営に関わる場を作った。受験生と等身大の本校生徒達と関わる機会を設けることで、受験生とその保護者の持つ入試への不安等を和らげることができた。アンケート結果からも、「上野学園コンシェルジュ」の存在が受験へと導いた例が数多くあり、その成果があったことがわかった。卒業生へのインタビューでもこの組織に参加することは、本校生徒にとっても教育上大変良い影響を生んでいる、という実感を得た。近年、大学進学においても総合型選抜・公募推薦入試で特別活動を重視する傾向であり、本校生徒の大学進学の活動実績につながると考えている。今年度も、コンシェルジュの生徒が年内大学入試で合格を勝ち取っている。

② 塾訪問・学校訪問

例年通り、エデュケーターサポート(旧インターエデュ)社の塾訪問代行のサービスを取り入れ、年間600塾以上を訪問いただいた。担当者は何度も本校に足を運び、学校の中身をよく理解した上で訪問をしてくれた。アポイントを取って訪問をしてくれるので、その後に繋がる塾も多く、教室での学校説明を実施させていただいた教室もあった。また、同社はenaのグループ会社であり、enaのエリア長会議に年間2回出席させていただき、直接学校の情報を先生方にお伝えすることもできた。これによって、各エリアに情報を下ろしていただいたのも、受験生増員につながった。塾訪問プログラムに参加していない学校は、enaへの塾訪問ができなくなっているため、より緊密な関係を維持したい。

中学校訪問は、各教員の担当を3校にし、年間最低2回の訪問をお願いした。広報室の教員には積極的に塾訪問をしてもらった。塾及びV模試、北辰模試への会場貸し出しを行ったことで出願増加にもつながった。来年度は、さらに積極的な貸し出しを行い、広報活動に繋げていきたい。

③ 中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒募集の実施

昨年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながらではあるが、生徒の音楽活動は、以前の形に戻りつつあり、外部受験生へ広報しながら募集活動を行った。

行事の広報の方法は、ア 学校HPでの音楽行事の掲載、イ 学校ブログでの掲載、ウ 音楽楽器店でのチラシの配布、エ 小学校・中学校への学校案内発送、オ 卒業生への学校案内発送を行うとともに、受験生対象の学校説明会や外部説明会や個別相談なども行った。

行事の中で、実施したものは、ア 各種学内演奏会(中二・高二演奏会、桜鏡演奏会、総合演奏会、卒業演奏会)、イ 地元とのコラボレーション演奏会(上野ミュージックフェスティバル)、他校との交流演奏会(都立総合芸術高等学校との交流演奏会、国立音楽大学附属中学校・高等学校 第14回招待演奏会)、ウ 外部講師を招いて本校で、生徒が受講する公開レッスンや校外での公開レッスン(タニタ楽器)、エ 体験レッスン(受験希望の専門楽器を専門の担当者からレッスン)で、これらを通して、本校での音楽教育を知ってもらう機会とした。

なお、高校音楽科卒業後は、今年度も複数の他音大からの推薦指定校枠を利用して2名が進学、総合型選抜で2名が進学、その他の生徒は一般受験で進学先を決定するなど、進路選択の幅もより充実している。

2) 学力レベル向上への取組み

学力の定義が大きく変容しつつある近年、コロナ禍による制限を受けた2020年度入学生には、「探究型の学び」を教育活動の軸とし、主体的に学びに取り組む力、思考力、表現力の育成に注力した。そのため、あらゆる教育場面において、継承する場から創造する場へのシフトチェンジを実施した。キャリア形成支援に関しても、将来なりたい職業をイメージし、そこから逆算して志望校を決定するシングルルートの考えを後押しするのではなく、探究学習を通して、それぞれの生徒が力を発揮できる場面や環境を見出し、ひとり一人のさまざまな気づきや学びを基に、平行にキャリアを選択する支援を学年中心に行った。

その結果、将来の職業や就職率で志望校を選ぶ従来型のキャリア選択ではなく、志望校での自分自身の成長や研究への取り組みに期待するといった、ウェルビーイングに結び付くキャリア選択をする生徒が増加した。

四年制大学への進学率は8割を超えたが、受験方法の内訳は、一般入試18%、総合型選抜

37%、指定校推薦 39%、公募推薦 7%となった。学年内の全国模試上位層（偏差値帯 60～68）は、一般入試を前提としながらも、探究活動の深まりと研究の完成度を判断基準とし、国公立含めた難関大への総合型選抜も併用した。難関大の総合型選抜試験では、探究活動の成果と学力の双方が求められる入試形態が多く、出願数から見ると合格数が少ない結果であった。早期からの基礎学力向上と探究を深める活動のバランス、生徒の放課後時間のリソース配分が本年度以降の課題である。生徒の学習データの整理、校内教員との対話タイミング、研究環境の整理を早急に進める。

昨年度の進学実績の特徴として、GMARCH、成成武と分類される難関私大への一般入試合格数の多さがある。（※共学化以降、最多）コロナ禍により、オンライン学習や学習データの利活用が浸透し、各教員による適切な個別フォローがスピーディーに実施出来た結果でもある。

さらには、偏差値帯で区切られた旧来の大学ランキングではなく、「Times Higher Education (THE)」が発表する大学ランキングで、「研究力」「教育力」「社会貢献力」が高く評価される難関大学へ、特進、総進問わず、総合型選抜を用いて多くの合格を果たした。3年間の探究活動を通して育成した力は、パラレルルートでのキャリア形成に繋がり、GMARCH レベルの基礎学力を醸成しながら、志望理由等の精度を高め、アカデミックな研究成果を用いた総合型選抜の高い合格率へと繋がった。

① 生徒ひとり一人の e ラーニングへの支援、伴走および学習データを用いたキャリア対話の実施（校内教員担当）

校内教員によるキャリア対話を複数回実施、学びに対するヒアリング、コーチングを行った。e ラーニングによる学びの到達度の把握と基礎力や応用力の向上を支援する対話機会の構築を徹底した。

② 中高全学年対象講習の実施

中学、高校ともにサマースクール・ウィンタースクールを実施した。STEAM 教育に連動したサマースクール等、コロナ前に実施していた形のブラッシュアップを行った。また、全 23 の外部専門家による放課後チャレンジ講座も実施し、中学生は全員、高校生も多く多くの生徒が受講した。理系、数学、宇宙プロジェクト、プログラミング、英会話等、様々な講座を開講し、興味関心を育てながら、主体的な学びへと接続した。

③ 各種検定の実施

各教科で学ぶ力の到達度を測る検定を各種実施した。目標達成への意欲を高めるため、検定合格に向けた教員の伴走の充実を図った。（英語検定、漢字検定、数学検定、硬筆・毛筆書写技能検定、ニュース検定等）

④ 自学自習の構築

生徒は、本校オリジナル作成の「SAKURA 手帳」を活用し、自らスケジュールリングやタスク管理を行っている。定期考査や模試、検定については、2 週間前からカウントダウン方式で考査日までの日数を提示、生徒自身が勉強の計画を立てやすいよう工夫をした。生徒の自習場所として、考査 1 週間前からは 4 階フロア、5 階フロアの教室を自習スペースとして開放した。進路指導部の教員が、その補助的役割として下校時間まで自習監督、相談要員としてサポートを行った。外部大学生チューターも導入し、個別フォローアップの精度も向上させた。また「Classi」「スタディサプリ」自学支援オンラインツールの活用も深まり、未習範囲や取りこぼした範囲も、映像や WEB 問題で振り返られるようになった。アダプティブな学習とその支援体制が ICT ツールによって構築された。

3) 教員の指導力強化

本年度は、オンライン授業は行わずに対面授業のみ実施した。昨年度までのオンライン授業で得た新たな授業をもとに教員同士研究し、授業作りを行った。また、新任教員研修で当該教員が授業を公開した他、各学期に全授業公開週間を設け、新任教員だけではなく全教員が効果的に経験を積み、能力を向上できる機会を作った。また、新学習指導要領の実施に伴う教科内だけではなく、教科を越えて授業作りや評価のつけ方など検討する場を設けた。

教員の指導力強化に当たっては、私立中高協会や私学財団、塾等の外部機関が主催する研修やセミナー、研究会等への積極的な参加を促進しており、多くの教員が実際に自身の能力向上に資すると考える研修等に参加した。研修等に参加した教員は、その内容を、職員会議で発表し、他の教員と情報共有を行った。

さらに、「探究科」を設置し、中学におけるフィールドワーク、卒業研究、高校における探究学習について研究、実践を行った。教員、生徒とともに何ができるか時間をかけて検討し、ゼミ活動では上級生が下級生の指導を行い、ポスターセッションでは下級生が上級生の発表を聞きフィードバックを行うなど学年の枠を越えた新たなチャレンジを行った。

こうした、教員の指導力強化、探究学習の研究・実践と並行し、授業環境の改善も昨年度同様、継続して行った。具体的には、中学1年～高校3年まで、一人1台 iPad を所有し、授業で活用できる体制を整えた。また、各教室だけでなく特別教室にもプロジェクターを設置し、iPad を用いた授業の効率化を実現した。

4) 生徒指導の充実

本年度も、遅刻指導、生徒心得(校則・ルール)の見直し、組織的指導体制の確立の3点を目標とし生活指導の充実に取り組んだ。

1 点目の遅刻指導では各クラス、各学年において一定期間内に一定の遅刻回数に至った生徒を生徒指導部の教員が面談する方法をもって対応。通期的に見れば遅刻の減少が認められた。今後も担任、学年と協力して組織的に指導する体制を確立することも含めて継続したい。ただし、コロナ禍では、感染防止を理由とした遅刻や欠席が多く課題が残った。

2 点目の生徒心得の見直しについては、まず部内で何度も審議し、その上で全教員にも十分に議論してもらってルール改訂に至った。また、生徒にも考えさせるために、「上野学園デザインプロジェクト」を生徒会役員と有志で立ち上げ、校則の見直しをはじめたが、まだ、具体的なものは出てきていない。

3 点目の組織的指導体制の確立については、現場の最先端である担任が生徒指導的事象において孤立することのないよう、生徒指導案件では審議の段階から度々会議を開いてコンセンサスを図り、また、実際の指導的場面では生徒指導部と学年、担任で当たることによって個々の生徒に対してより効果的な指導を求めた。また、上記の遅刻指導も担任が一人で大変な生徒を抱えないよう組織的に指導していくことを意図したものである。

学校行事については、コロナ対策や熱中症対策など工夫をし、体育大会を東京武道館で実施したり、桜鏡祭プログラムを変更したりして、ほぼ予定通りの日程で実施することができた。

[生徒会行事]

実施日	行事名	対象
4月9日(土)	新入生オリエンテーション・部活説明会	新中1・高1
4月11日(月)	自転車安全教室	自転車通学希望者
6月3日(金)	体育大会	全校生徒
9月17日(土) 9月18日(日)	桜鏡祭	全校生徒
9月21日(水)	自転車安全教室	自転車通学希望者
12月10日(土)	生徒会選挙	全校生徒

5) 生徒の健康と安全

1 校内の救急体制の整備のため、下記取り組みを行った。

① 健康上注意が必要な生徒の共有

健調査票や健康相談から実技教科などで配慮が必要な生徒について校内で共有した。

② 食物アレルギーの知識の普及・研修会の実施

食物アレルギーのある生徒を共有した。職員会議で食物アレルギーの緊急時の対応を確認した。

③ 教職員、生徒対象の救命救急講習会の実施

教職員・生徒希望者対象の普通救命講習会を7月・12月に実施した。

2 健康教育として、専門機関による出張講座を実施した。

① 中学2年生 1月 喫煙防止 学校薬剤師

② 中学3年生 1月 危険薬物防止 学校薬剤師

③ 高校2年生 1月 HIV エイズ予防啓発講座 台東保健所主催 NPO 法人ぶれいす東京

3 特性のある生徒や不登校生徒に対する組織的な支援体制を築いた。

中学生・高校1年生の注意を要する生徒について、担任からの報告のもと、月1回の情報交換会(サポート委員会)を管理職、中学・高1学年主任、養護及びスクールカウンセラーで開催し、対応について協議した。

4 校内をはじめ課外活動や宿泊行事における感染症対策を実施した。

新型コロナウイルス感染症では、クラスター予防のため宿泊行事前のPCR検査を実施した。罹患者については、学校医、保健所と連携して、対象となる部活動等に関して、情報共有を学校全体で行い、さらなる感染の拡大を防止するとともに、できるだけスムーズに正常化するような体制をとった。インフルエンザ流行時には活動範囲を精査した。新型コロナ・インフルエンザワクチン接種率を教職員、生徒にアンケートを実施した。

6) 中学校音楽コース、および高等学校音楽科生徒によるコンサート

本年度に実施した中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒出演の主な演奏会は下記の通り。
〔令和4年度 中学校音楽コース・高等学校音楽科生徒による主なコンサート〕

実施日	演奏会	会場
5月10日(土)	中二・高二演奏会	飛行船シアター
6月25日(土)	高等学校音楽科 豊田弓乃先生のヴァイオリン公開レッスン	第1リハーサル室
7月12日(火)	演奏家コース室内楽前期発表会	第1リハーサル室
7月18日(月)	都立総合芸術高校交流演奏会	都立総合芸術高校講堂
9月17日(日)	桜鏡祭演奏会	飛行船シアター
11月20日(日)	国立音楽大学附属中学校・高等学校 第14回招待演奏会	国立音楽大学講堂
11月26日(土)	中高総合演奏会 (中学校音楽コース・高校音楽科)	飛行船シアター
12月4日(土)	高3音A組 演奏研究発表会	アンサンブル室
2月18日(土)	高校卒業演奏会	飛行船シアター
3月16日(水)	演奏家コース室内楽後期発表会	第2リハーサル室
3月18日(土)	中学卒業演奏会	飛行船シアター

以上